

## 2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立面瀬小学校

採択活動名

自分の考えをもち、行動する子供の育成  
 — 「調べたい・伝えたい・やってみたい」を大切にした授業づくりを通して—

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 面瀬川の生き物調べ	3	総合的な学習の時間
2. 面瀬川調査隊	4	総合的な学習の時間
3. ふるさと気仙沼の海	5	総合的な学習の時間

取り組みの概要

## 【第3学年】

面瀬川や面瀬地区ふれあい農園、学校ビオトープの生物調査や飼育観察を通して、多様な生物が生息する豊かな自然があることに気付く。調べたことや観察実験で発見したことを発信する。

面瀬川で採取してきた生き物は、教室前廊下に水槽を設置して約3ヶ月間飼育・観察した。「面瀬川ミュージアム」と名付けた。8種類約20匹の生物を飼育したが、児童が日常的に観察することができたことが大きな成果につながった。授業の時だけでなく、休み時間にも観察する児童が多くいて、そこでたくさんの方の気付きや発見があった。ここから「疑問」や「問い」が生まれ、以後の探究活動にもつながっていった。

## 【第4学年】

面瀬川源流や河口域に活動の場所を広げ、異なる環境の生き物調査を行う。環境汚染の実態を知り、水辺環境を守るためにできることを考え、実践し学習成果を発表する。河口の学習をつないで、冬季は尾崎漁港でワカメ養殖体験をする。

校外学習で発見したことや気付いたことを新聞やカルタなどにまとめて見合うことで、活動を振り返り、成果を共有することができた。体験で疑問に思ったことは専門家に聞いた他、タブレットで調べさせたことで、各自の問いに合わせて効率的に疑問や課題を解決することができた。また、ワークシート等の記録を累積したことで、課題の整理分析の際に使用したり、発表をしたりする際に活用することができた。

## 【第5学年】

面瀬川が流れ込む気仙沼湾の多様な生き物を採集したり、川と海の境目について学んだりしながら、身近な海の不思議や豊かさを学ぶ。自分たちの生活と海の環境変化の関わりに気付き、豊かな海を守るための考えを実践し表現する。

岩井崎での生き物調査（6月）、マグロ船の見学、森里海研究所での牡蠣棚の見学や植物プランクトンの採取（7月）、MSC認証を取得したカツオ船についての講話（9月）を通して、児童一人一人の興味関心に応じた課題設定を行うことができた。また、発表に向けて、タブレット（ロイロノート）を活用することで、児童同士の考えの共有、記録の蓄積、写真などの資料の活用をスムーズに行うことができた。

活動中の写真

【第3学年】



宮城教育大学の棟方先生がモクズガニを使って川と海とのつながりについて説明する様子

【第4学年】



ワカメの刈り取り体験で説明を受ける様子

【第5学年】



岩井崎で生き物を観察する様子